しんらん同人

No.574
5・6月号

浄土真宗本願寺派　誓願寺
〒171-0052　東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828　【ホームページ】http://www.seiganji-tokyo.jp/

【親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年 慶讃法要】

われもひかりのうちにあり

誓願寺住職　古賀尚之

親鸞聖人御誕生８５０年・立教開宗８００年慶讃法要が本山御影堂において三月から五月まで修行されます。誓願寺も住職他四名が、所属の北組十五ケ寺の皆様五十余名とご一緒にお参りしてまいりました。厳粛な中で清々しいひと時でした。

さて、蓮如上人の時代から五百年の間、自分のご法義の受け止めを表出するために「領解文」が用いられてきましたが、その文言が分かりにくいという点から、分かりやすさを考慮された、新しい「領解文」（浄土真宗のみ教え）が発布されました。

★今までの「領解文」です。

もろもろの雑行雑修自力のこころをふりすてて、一心に阿弥陀如来われらが今度の一大事の後生御たすけそうらえとたのみもうしてそうろう。たのむ一念のとき、往生一定御たすけ治定とぞんじ、このうえの称名は、ご恩報謝とぞんじよろこびもうしそうろう。

この御ことわり聴聞もうしわけそうろうこと、ご開山聖人ご出世のご恩、次第相承の善知識のあさからざるご勧化のご恩と、ありがたくぞんじそうろう。

このうえは、さだめおかせらるる御おきて、一期をかぎりまもりもうすべくそうろう。

確かに一語一語は判りにくい個所もありますが私自身納得してまいりましたので、私の後生の一大事を安心して受け止められることや、私にとっての先達である多くの善知識への感謝の気持ちを表出したい思いなどから、この度の改革に少し戸惑っております。

本山からは各種の資料や説明書が届いておりますので、皆様方と学びを深めてまいりたいと考えております。

弥陀の本願

誓願寺初代住職　故 岡本泰雄

弥陀の本願を信ずるとは、私の心で信じてかかるのではなく、仏のまことを聞く。果てしなく迷い続けているこの私を救わねばというお慈悲を聞くのであり、またそのために計り知れないほどのご思惟とご修行で私の救われる道を仕上げて下さったのが「阿弥陀仏」だと聞かせて頂くのです。

では、定聚の位に摂めとって下さるのは何時かと言えば「私を救うのが仏の願いであった。その願いの中で現に今生かされていたのだ」と知らしめていただいた時であります。

浅原才市さん（妙好人・信仰心のあつい念仏者）はいいます。

「才市さんはどこにいる。如来さんはここにいる。才市が心に満ち満ちて、なむあみだぶつを申しているよ」「なむあみだぶつ、わたしゃあなたの空気のなかで住まいをさせてもろうて、なむあみだぶつ」「わたしゃあなたに先手を取られ、あなた私に満ち満ちて、それからわたしがあなたを思う。思うしかけがなむあみだぶつ。こんなあなたは奇妙な人よ、なむあみだぶつでわしを助ける」

このように如来の誠が私の中に入り満ちて下さった時が私の信心です。それは私が作るものではありません。仏のまことがそのまま私のものとなったのです。だからいただいた信心は崩れることはありません、金剛石のように堅い信心です。私が作った信心なら崩れてしまいます。お稲荷さん、お不動さん、観音さんなど色々な信心があります。自分の都合の良い時には信心となり、都合が悪いとどこかへ飛んでしまいます。

私達は神様や仏さまにお参りする時に、こうあってくれたらよいのにという欲望を持っています。

自分の思うようにならないと「こんな神様は駄目だ、ご利益がいただけないではないか」と言います。それが何かの都合でうまくいくとご利益がいただけたと喜びます。

まことに自分勝手なものでありますが、これが私たちなのです。

話は少し飛びますが、室町時代の禅僧一休さんは面白いことをいいながら仏法をお広めになりました。

ある人が「長生きしたいから御祈禱をしてください」と言ってきました。『どの位長生きしたいのかね』「あまり長いのも厚かましいですから、十年くらい」『すると九十歳だね。九十歳になったらポックリいくが、それでよいか』「九十歳ではチョット物足らなく思いますが」『遠慮しなさんな、望み通りにしてやるのだから』「では百歳くらいまで」『それで良いのかね』そう念を押されると困ってしまいます。百歳までならあと二十年ですが、たった二十年でよいかと言われますと困ります。「お言葉に甘えて五十年ほど」・・・その度にそれでよいかと言われますので返答出来なくなってしまいました。

一休さんは身を正して言いました。『死なない命が欲しいのではないか』「それに越した事はありません」『では仏さまの教えを聞きなさい、仏さまとならせていただくのは、無量寿といって限りない命の世界に生まれさせて頂くのだ』と・・・・

合掌

身も心も南無阿弥陀仏

誓願寺初代住職　故 岡本泰雄

「念仏三昧において信心決定せん人は、身も南無阿弥陀仏、心も南無阿弥陀仏と思うべきなり」

信心決定することは、我が力や知識でするのではありません。如来によって決定されるのであります。仏の方より往生は治定せしめたもうのであります。

如来の本願は苦悩の有情を救わずばやまぬ。次から次と起こって来る煩悩に追い回され、迷いの中を苦悩しつつゆくすべての人々を、絶対の慈悲の懐に抱きとって、光り限りなく、いのち限りない世界に生まれさせずにはおかぬという願いなのであります。

迷える人を目当てとして願いを起こし、永劫の修行の結果、阿弥陀仏となりたもうたのであります。されば、このよごれはてた悪のかたまりである私が如来の中に包まれている、如来と私とはどうしても離すことが出来ない、それが南無阿弥陀仏なのであります。

このいわれが、そのまま聞かされた時、どうしようもない私が、どうなるのではなかった、どうにもなり得ないまんまを救い取って下さるお慈悲でありましたかと、安心して頂くのであります。

この安心は如来の真心が至り届いて下さった結果なのであります。このことわりが頂かれた時、身も心も南無阿弥陀仏であるといわれるのであります。

頭の上から足の先まで南無阿弥陀仏が入り満ちて下さって、身を粉々に砕いて、どの一片を取ってみても如来のお慈悲が染み付いていないというところはないというのであります。

心はいつも動きどうしなのでありますが、そのどの瞬間をとってみても、お慈悲の入っていない瞬間はないというのであります。つまり、身も心も南無阿弥陀仏なのであります。親鸞聖人が、至徳具足の益と喜ばれたのもこの心持ちでありましょう。

合掌

「法味抄」より

定次郎はどうしても信心が得られないので、ご本山に上って直々に聞かせてもらえば得られようと思い京に上った。

本山に詣でる前に、床屋に入ってひげをそってもらった。

定次郎は年寄りの顔はそりにくかろうと、剃刀を当てる都度ごとに頬を膨らませてあごを突き出したりする。すると床屋が腹を立てて「あんたのように頬を膨らませたり、ひっこめたりすると危なくて顔は剃れない。私が仕事をする間は自分の手出しをせずに任せなさい」と言った。

定次郎の不審はいっぺんに晴れ、「有難う、お恥ずかしうございます」と謝って、村に戻っていった。

（念仏者の言行）

「法味抄」は、故岡本泰雄が真宗聖教中から要文を抜き出し、意訳した冊子です。聖語末の（　）内の文字は聖教の書名を略記したものです。

ご法座等のご案内

どなたでもご自由にご参加いただけます。
参加費は無料です。

5月

5・14（日）
■午前十時～
定例法座
【金安一樹師（山口県）】
■正午～
医療相談
【佐藤公彦医師】

5・21（日）
■午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

5・28（日）
■午後一時～
永代経法要・祥月命日合同法要
【桜庭尚吾師（北海道）】

6月

6・11（日）
■午前十時～
定例法座
【内田正祥師（三重県）】
■正午～
医療相談
【佐藤公彦医師】

6・18（日）
■午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）

6・25（日）
■午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要
【武田一真師（広島県）】

編集後記

・本山での慶讃法要の翌日に神戸別院（モダン寺）に参拝してきました。お同行とご一緒の楽しい団体参拝でした。

〔神戸別院 モダン寺(外観)〕

〔神戸別院 モダン寺(内部)〕

・コロナの扱いが緩和？されつつありますが、マスク着脱の可否や三密など自分の納得する方法で過ごしましょう。

・坊守と二人で、富士本栖湖に芝桜を観に行きました。規模は小さめでしたが満開の風景を楽しみました。

〔富士本栖湖の芝桜〕

・お寺の外壁と階段を補修いたします。工事中はご迷惑をおかけしますがご容赦ください。